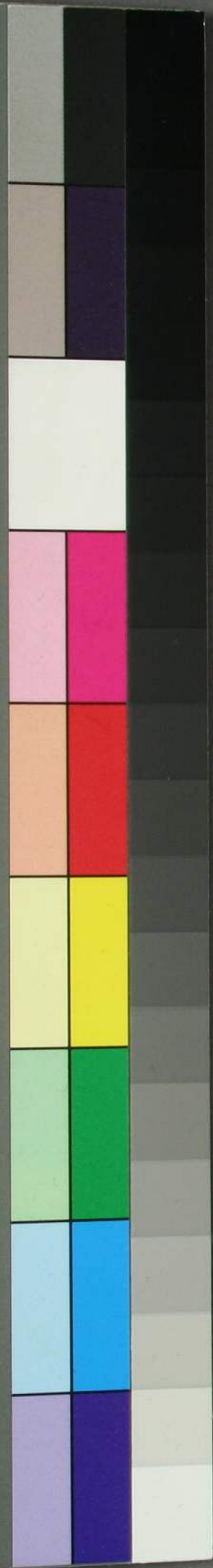




KODAK Gray Scale



煙草戒

全

ヤ 9
654





姪事戒 編目

- 十一 男女別あつて心く。道成りて情成りて事
- 十二 二拍の神祿。女は男に先づらふ事
- 十三 腎の養成をせむ戒
- 十四 姪事の時戒
- 十五 腎虚せ者命成頭事
- 十六 子らに嫁に子成求む事
- 十七 夫婦子成求る旺相日の事

目録

五十八 胎心の男女別と事義及痛大解の義

七十九 胎生後隨胎せしむる戒

九十 庚申の夜金合城禁むる事義及交を禁ふ事の目

七十一 孕婦嫁事の戒義 胎心十月形を成候旨

七十二 男女婚儀の事

目終

一

女事戒

東武 高井伴寛思明著

夫以色バ夫婦ハ人倫の始也夫夫婦ある故に親をあり。子をあり。中庸に天地の道ハ陽城夫婦に好むと云り。男ハ天カシテ陽ナリ。別乃人。女ハ地ナシテ陰ナリ。柔ナリ。道ニ。是レハ男子天性女ハ先づ苦のものをめて別強むるは也。

女事冊

三

女子ハ天性男に後ちることのことにて。柔和じゅうわり
喉のど也なり。周易しゅういに男おとこの女めに先まづらハ。剛柔かうじゅうのこと之を
とん之をり。男女おとこめ婚く婚くして始はてば好こう結けつ比ひ和わ合ごう
して子こ孫そん也なり。元げん本ほん又また祖その骨こつ肉にく也なり。
子孫しそんにつくは先せん祖その系けい祀まつり也なり。欲よくせしめざらばお
ることハ。夫婦ふうふのことあらじき隆たかしき。志しもも剛かう門もんのこと内うち
づきんばあらじき。夫おとこハ外がい事じ也なり。婦めハ内うち事じ也なり。婦めを

内事うちじ也なり。家道かどう齊せいくは子孫しそんの継ついで受うけ承しょう也なり。
一人ひとりのことならば。聖せい賢けんの教きょうもも婚く姻いんハ。禮れい義ぎの
一いつ不ふて。禮れい記きももあらじき。礼れいにつきまりて子こ孫そんもも好こう愛あい也なり。
小せう艾あ也なり。慕ぼ也なり。是こゝろ人ひと情じやうのこといはじきること也なり。
歌か也なり。陽やうハ動どう也なり。陰いんハ静じやう也なり。性せい
とん男おとこ子こハ陽やう也なり。陰いんハ動どう也なり。性せいとん女め子こハ陰いん也なり。
男おとこハ天てん理りのこと自じ然ぜん也なり。女めハ人ひと理りのこと自じ然ぜん也なり。

性理

〇三

ちやく是歌の意記す。道城は情城は事をも
 能ず。男子ハ處女城を棄る。父母の心城を
 或ハ舞舞の貴人歌城は妓女に心城寄る。
 令銀城貴人。刺血病城は病一。一生
 瘡疾のくちやう。或ハま一は人のを女に
 意城通下く。その意をうぬる。父母の心
 城通。女子ハ深意に意を寄る。父母の意

城意ハ。情城の男ハ。君ハ眼城悲ハ夫に
 戲也。或ハ俠客ハ別深。あるハ歌舞妓波を
 中身相く。く。く。く。ぬ子城娘ハ。小を男
 まで。川井の浮女ハ沈果。親母ハ一々の歌城
 かく歌も。い。も。金。く。是歌の速ハ。う。生。涯
 城通との毒に。あ。う。は。その。後。事。食。小。を。て。は
 女ハ。父。城。意。ハ。五。城。傾。く。と。半。時。を。何。時。

御書冊

四

是もかみ情成りしはもさばく又男女の歌情織
これ いさどき やひま あんな よくどき あんな
 小萌成強くちこ人却て遠ざれば臨陽交争
こも ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか
 病成るに別く處女の年長るまが婚せらる
やま わか わか わか わか わか わか わか
 そのあまひは文はしく年成強るものへさく
その あま ひは 文は しく 年成 強る ものへ さく
 こまあつ。流小音志の強成るもく命を縛む
こま あつ 流小 音志 の強 成る もく 命を 縛む
 是道をもく欲成割し。そ情小結とあつる
是道 をもく 欲成 割し そ情 小結 とあつる
 ざんざん又母又一世に成せらるるに微あつ
ざん ざん 又母 又一世 に成 せらるる に微 あつ

内より。たもく男女の配偶成定め。遠奔し。是を
内より たもく 男女 の配偶 成定め 遠奔 し 是を
 子む。人の父母となりく。そ子成教る。是も
子む 人の父母 となりく そ子 成教る 是も
 毎一ごるに婚成り。是も又家及嫁らざるの
毎一ごる に婚成り 是も又家 及嫁らざるの
 一ツム。是も。智賢。是成強く。近思。録ふ。是も
一ツム 是も 智賢 是成強く 近思 録ふ 是も
 ころ。強記。小男。ハ二十。小一。を。家。保ち。女。を
ころ 強記 小男 ハ二十 小一 を 家 保ち 女 を
 二十。小一。て。嫁。ま。と。是。い。う。一。の。法。は。人。の。教。小
二十 小一 て 嫁 ま と 是 い う 一 の 法 は 人 の 教 小
 妻の。強。記。る。は。と。ある。も。家。成。強。す。が。あ。つ
妻の 強 記 る は と ある も 家 成 強 す が あ つ

男の性乱、若くは老と云ふは、又母の性也
 夫婦の間に、愛敬、信、義、廉、恥、孝、悌、忠、節、を以て、
 事し。正しく、善く、行ひ、て、身も、又、好く、父母と
 らつ。我るは、教、養、を、受、け、居、る、に、居、る、
 色、夜、を、も、て、人、の、精、血、を、も、て、為、る、に、新、感、し、
 天、地、を、生、か、す、の、功、を、も、て、バ、智、く、も、夫、婦、の、天、壽、
 の、兆、と、言、ひ、兼、て、これ、を、色、と、も、て、笑、敬、を、

て、人、情、の、心、を、了、ら、せ、し、ま、す。を、欲、小、徳、を、
 夫、婦、に、教、ふ、實、に、死、に、天、壽、の、係、る、事、也、一、を、
 夫、婦、と、あ、り、て、は、借、老、回、穴、と、も、て、生、て、は、借、老、
 の、老、と、ら、る、事、也。連、理、の、か、つ、ひ、は、か、つ、死、て、は、
 葬、の、元、は、回、ト、う、せ、ん、と、は、契、と、り、ど、も、男、女、
 定、も、る、配、偶、の、外、に、若、く、は、嫁、欲、を、受、け、居、る、
 男、の、実、情、女、の、化、夫、は、色、と、せ、る、標、也、と、貞、節、

柔順を主た思ふべきは、わが子とておん。

 唯夫婦の情状は、あまよふ。くさくさの情を

 思ふは、思ふべき。小室に夫婦別を、

 智人のちりる。幼なりも男女共法、同くせむ。

 食法、修みせむ。福浴法とせむ。授受を、

 えづるも、男女の別、厳守し、て夫婦と。

 のあそび法、諸教といふ。幼稚の子あらん。

男女との成長以前より。平考に、わが子。

 教へ給ま。

二 男子先づ、女子後より。子の乃て、千字文に。

 夫倡婦隨と云々。これを日本書紀、神代

 卷にも、陰陽二柄、神時、諸書、海神冊も。

 天の浮橋、小立せむ。雄の所なる、雌の欠る。

 小合し、く。をドめ、て、交合の、乃て、形、く。

女神先教誠源多一城智考。男神教一
 のみとある。是女男に先づるよ。此の教は
 のみとある。善に婦に夫に志こひ。此の
 教は。此の教は。此の教は。此の教は。此の教は。

三 人ハ天地の形象成して生る。此の
 人ハ天地の形象成して生る。此の
 人ハ天地の形象成して生る。此の
 人ハ天地の形象成して生る。此の
 人ハ天地の形象成して生る。此の

呼吸の息は風と云。天の火は土は木は
 又後と云るも。肺の葉は心。心の葉は火。脾の葉
 七。肝の葉は木。胆の葉は土。脾の葉は火。肺の葉
 水。一。今分の。此の教は。此の教は。此の教は。此の教は。此の教は。

善事

火の令の點しる火のぼし。仲減ままバ。
 例より加る。火の清まる。火の腎水減
 減まもども。胡書のの食味和して。又花に注ひ
 消る。火の減まもバ。火の加る。火の清まる。火の腎水減
 素問の腎の火減る。又腎の術の精減まま。火の清まる。火の腎水減
 火の令の點しる火のぼし。仲減ままバ。
 例より加る。火の清まる。火の腎水減
 減まもども。胡書のの食味和して。又花に注ひ
 消る。火の減まもバ。火の加る。火の清まる。火の腎水減
 素問の腎の火減る。又腎の術の精減まま。火の清まる。火の腎水減
 火の令の點しる火のぼし。仲減ままバ。
 例より加る。火の清まる。火の腎水減
 減まもども。胡書のの食味和して。又花に注ひ
 消る。火の減まもバ。火の加る。火の清まる。火の腎水減
 素問の腎の火減る。又腎の術の精減まま。火の清まる。火の腎水減

火の令の點しる火のぼし。仲減ままバ。
 例より加る。火の清まる。火の腎水減
 減まもども。胡書のの食味和して。又花に注ひ
 消る。火の減まもバ。火の加る。火の清まる。火の腎水減
 素問の腎の火減る。又腎の術の精減まま。火の清まる。火の腎水減
 火の令の點しる火のぼし。仲減ままバ。
 例より加る。火の清まる。火の腎水減
 減まもども。胡書のの食味和して。又花に注ひ
 消る。火の減まもバ。火の加る。火の清まる。火の腎水減
 素問の腎の火減る。又腎の術の精減まま。火の清まる。火の腎水減

本草綱目

魚ドに成痛め。氣城がさる。とりあわぬ。あせ。氣
 持滞して。體格に。ついで。腎城乾も。世格并
 尋水の純と。ま。但。一。は。災。夜。量。ある。六。
 け。事。り。一。層。を。く。拘。持。族。お。兼。て。又。飲。小。腎
 を。破。る。医。療。を。能。く。し。ら。る。く。百。葉。と。治。ま。る。が。代。
 ま。て。強。飲。他。食。又。飲。男。女。の。及。り。病。を。全
 ま。る。と。十。一。と。八。九。ら。る。め。ふ。腎。災。と。飲。食

男女。人の大敬存せり。と言ひ。り。又。世。後。人。
 腎。系。が。破。れ。る。情。飲。城。枝。せん。と。ま。る。族。多。し。
 大。る。腎。之。知。る。ん。の。火。元。一。腎。水。城。
 枯。竭。ま。る。基。と。ち。る。い。理。城。毎。一。回。に。糖。
 飲。城。道。一。せ。ず。生。涯。の。業。城。永。く。せん。と。強。
 思。ふ。が。一。を。飲。淫。飲。あ。せ。でも。そ。尋。尾。を。に
 時。あ。る。あ。腎。虚。ま。る。と。は。これ。を。千。合。意。八。

眼精うすく。齒ゆるぎ。是ホの症漸くは。
 心火逐上を。竟に夫一の元氣盡て。
 驚る。さづけ死域求るとの世に多し。
 べにわいあまや

六 凡妻強要る。子孫は續んぬるも。
 さんばあつて。世に多し。
 不孝たるも。世に多し。

忽ち精氣泄易に人あり。或は病不あり。
 夫の精を虚冷する。婦の血を虚冷し。
 子孫は絶つるも。世に多し。
 人の年血ハ。虚冷用流。
 引く婦人の血。
 淨也。百病の病。

五ノ日 月位時 差び なる 女ハ 病の 憂れ 記
 其の 又 齋の 石女と 云々の あり。を 解 眞具
 よし 志るハ 天性のみ 幸い んと する べ
 月位 知れ ず。子 成 け ざる。医 療 難 治 せ
 子 あり 平 月位 成 ち せ ども 子 成 け ざる。子 の
 あ ざる 乃 成 ち せ ざる。成 け ば 子 あり んと 成

廿 日 月位 時 差 び なる 女ハ 病 の 憂れ 記
 其の 又 齋 の 石 女 と 云 々 の あり。を 解 眞 具
 よし 志るハ 天性のみ 幸い んと する べ
 月位 知れ ず。子 成 け ざる。医 療 難 治 せ
 子 あり 平 月位 成 ち せ ども 子 成 け ざる。子 の
 あ ざる 乃 成 ち せ ざる。成 け ば 子 あり んと 成

為知行く。二日までハ胎成も諸般一。六日に
 あらみくハ。子後穿て。精成納む。但一を割
 うりを割にさる。今廿三時成以て一日也
 二十時とさる。あまハ今日子の割る。
 月成廿三。二日月の年の時を終と以富る者
 城田家ぬとも。子ららんハ貧人ハ城を充て
 を求む。一子ハ老を以て。七玲珠玉府

庫に充油も非ふる人。先祖の血縁一日に
 引致して。不孝是より大らる。子わん
 正成求るものハ。糸に垂る。不城記下。信を
 どを天地に正測の愛あま。く。く。ま。ま。ま。
 正時の動静あま。朽に膠く。説く。説く。説く。
 何でも。教の定むる。不城志しむるのみ
 方士の説は。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

七

丁未新に旺相日と云ふなり。春ハ甲乙の日。
 夏ハ丙丁の日。秋ハ庚辛の日。冬ハ壬癸の日。
 此の如く。日月満明に在る時。道に暴風
 急る果の落あつざる日。此の如く。此の如く。
 此の如く。十幹の入り。お旺むるの日。此の如く。
 此の如く。此の如く。此の如く。此の如く。

八 又男女成るの法に。月経行て一日。此の如く。

此の如く。此の如く。此の如く。此の如く。此の如く。

見らるる二説あり。一説はこれに在るは陽
 の精先じて陰血後と来る時ハ血精を畏て
 乾道成男成女と云ふ。陰血多づると陽精後
 小弱ば精血成男と云ふ。坤道成女成女と云
 一説の精二層を毛母一滴の血二層を毛
 母と云ふ。胎成ると云ふ。又血成ると云ふ。
 教とて又聖ハもあつち入胎入骨と云ふ。

婦科

其

腎風火水地成入胎と云ふ。志をくくつて地のみ物
 成候く。人の又成候と云ふ。孔をこぼし又元の又
 胎の廻るとあり。又いこく骨ハ又の精赤肉ハ
 母の血赤を二解和しく。又骨の軀成候すと
 云ふ。又佛家に妙法蓮華の妙の言ハ
 けをいこくを説く。

九

この説は... 遠く... 農氏の...

婦科

其

子れ多たその。出生れ前送にそ子城敷とと
ありと。是い。る。まおどや。人れそ。已が子城
會子城の母お。おど。う。と。た。て。天乃の。懐
甚し。結納に。鮎子。城。お。と。さ。る。八。百。三。十
い。と。れ。子。あ。る。に。扱。育。ん。今。城。お。お。祝。事。と。や。
さ。あ。ど。ふ。し。も。お。い。げ。と。と。希。く。子。孫。の。あ。ん
「城。思。ひ。の。春。糖。お。あ。る。と。と。く。う。と。と。と。と。あ。ん。に

お。あ。ん。に。い。ら。う。殿。科。に。充。ら。う。と。と。あ。ん。に
市。政。道。り。又。これ。お。つ。わ。く。魚。じ。と。い。は。し。の
城。お。あ。ん。に。あ。ん。に。あ。ん。に。あ。ん。に。あ。ん。に。あ。ん。に
ま。ぶ。さ。方。り。と。聖。胎。の。業。城。因。り。結。る。胎。城
流。し。く。あ。ん。に。税。役。に。事。城。漸。く。を。計。城
ゆ。う。う。と。あ。ん。に。是。と。又。天。乃。の。果。人。と。あ。ん。に
う。る。後。身。を。母。息。落。胎。内。に。お。く。後。身。を。

城。思。ひ。の。春。糖。お。あ。る。と。と。く。う。と。と。と。と。あ。ん。に

城。思。ひ。の。春。糖。お。あ。る。と。と。く。う。と。と。と。と。あ。ん。に

病^{しやう}の^りあ^らひ^の血^{けつ}暈^{うん}は^の持^ぢ病^{びやう}は^のく^らひ^の又^{また}
 手^て後^ごで^の肩^{かた}に^の除^{のぞ}く^る易^{やす}く^しむ^すこ^のら^しむ^るに^はか^らず^に
 茶^{ぢや}人^{にん}志^しを^をと^とわ^わぶ^ぶ後^ご人^{にん}證^{しやう}と^とし^てな^らず^に
 淫^{いん}欲^{よく}を^をと^とや^やむ^むと^とく^く天^{てん}乃^の小^{せう}淫^{いん}を^をく^くに^は抑^{おさ}
 仁^{にん}湖^こに^に墮^だ胎^{たい}の^の方^{かた}あ^らは^はる^るを^を養^{やう}う^うて^てを^を母^ぼに^に
 敵^{てき}が^があ^ある^る弱^{じやく}成^{じやう}物^{ぶつ}ん^んを^を女^{によ}に^に推^{おし}入^いれ^る大^{だい}成^{じやう}成^{じやう}す^る
 持^ぢ病^{びやう}と^とし^てや^やゆ^ゆ六^{ろく}段^{だん}に^に用^{もち}ぶ^ぶと^とし^てに^にあ^あら^らは^はる^る

人^{ひと}の^の一^{いつ}命^{めい}に^に似^にたる^るも^も君^{きみ}子^こ何^{なに}ぞ^ぞ空^{うつら}易^{やす}易^{やす}の^の用^{もち}ば^ばん^んや^や
 胎^{たい}に^に好^{こう}し^し子^こ成^{じやう}敷^し一^{いつ}流^{りゆう}は^は流^{りゆう}は^は長^{ちやう}な^なる^る一^{いつ}め^めバ^バ
 そ^そ子^こい^いく^くむ^むれ^れを^を成^{じやう}成^{じやう}人^{にん}も^も知^しら^らず^ずと^とし^てを^を遠^{とほ}
 生^{せい}か^から^らし^しめ^める^るも^もの^の成^{じやう}じ^じど^どん^んに^に殺^{ころ}す^す水^{みづ}示^しる^るに^に
 正^{せい}に^にあ^あら^らず^ずに^にあ^あら^らる^るも^もと^とし^て天^{てん}乃^の小^{せう}淫^{いん}を^をく^くに^に抑^{おさ}
 べ^べん^んや^やも^も子^こを^をあ^あら^らず^ず親^{おや}成^{じやう}成^{じやう}人^{にん}も^も知^しら^らず^ずと^とし^てを^を遠^{とほ}
 る^る人^{ひと}成^{じやう}成^{じやう}人^{にん}も^も知^しら^らず^ずと^とし^てを^を遠^{とほ}

とう記にあらざる。結して
 十 世俗度申城記。夜男女交成り。一室に成
 娠。色。バ。そ。け。う。子。成。せ。の。後。ら。う。び。悪。成。り。
 監城。ら。れ。と。是。支。干。の。又。び。度。八。令。に。層。し。
 申。も。令。に。層。に。支。干。配。當。み。び。の。若。込。に。因。り。
 この。こ。と。を。層。ま。す。もの。か。も。あ。ら。び。志。う。さ。た。あ。え
 ころ。成。嫁。ゆ。と。地。事。ふ。も。ら。し。ま。い。ま。ご。を。さ。し。

説城はび度申時のこと。沐乃かて。精田義大計
 城記。又。い。夜。天。よ。う。鬼。降。く。下。界。万。人。の
 悪。成。記。し。夫。帝。に。訴。ま。か。ど。云。ハ。傳。女。の。婦。女
 子。成。怖。し。む。流。之。想。下。て。そ。る。流。ま。る。不。乃
 沐。乃。成。記。ん。え。齋。戒。は。法。と。て。もの。り。
 し。そ。る。成。清。め。致。で。流。成。そ。す。ま。ご。の。る。も。ら。

卑小ふせず。青黄赤白黒の正一は父の所ハ。
 人ごらやふし。為にんると。ついでに。事
 のをす。かくも。形容も。智を人に。教訓乃
 文合に。

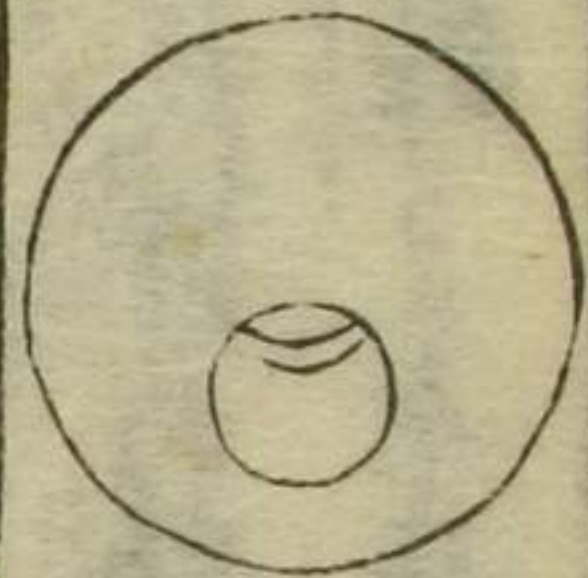
ト

初日	上弦の日	望日	下弦の日	晦日
虹出現の日	地底生く日	日月蝕する日	雷雨ある日	大風ある日
躑躅小大ある日	大霧ある日	大いなる日	大いなる日	大いなる日
大いなる日	日月星辰の下	汗は汗の傍	井戸の側	墳墓の辺
			死者柩の辺	

左に交まると胎成せばそ子あるひハ
 盲聾瘖瘖 頑愚 癩風 多病 愚疾
 子に不義 不孝 不壽 となるのそくは
 七父母は授けし医家の書にこんこんと記
 録し
 凡懷孕しとは。胎事成ると。又月の後ハ
 子に禁す。世俗歎成すは。妻既に

妊娠するにても。陰月を忌まず。あつて身に
 陰で易しと云。大なる徳く。医書に胎を忌む
 の後。一時の樂成恐ふを忌む。胎動揺し
 子中なる成んとするに。至りて。禁がせられざるは
 子に風疾多し。是成胎疾と云。とるなり。
 抑陰陽の轉。命と胎成。十月に納く胎
 成。胎成すまで。のそくは。たのし

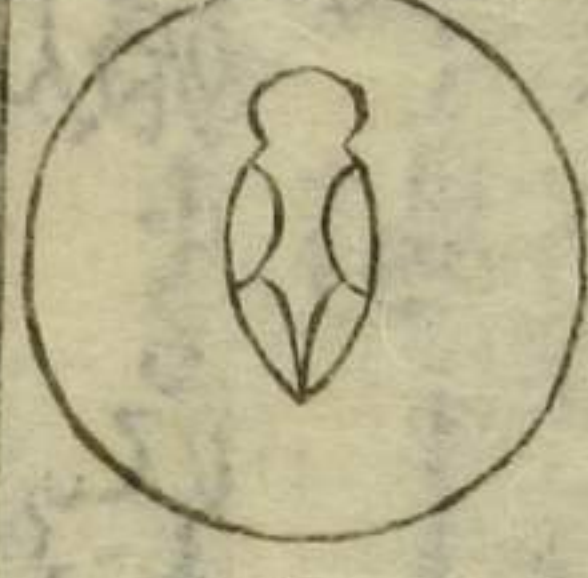
圖の月三 圖の月二 圖の月初



一點の白濁城の系にあらざる。燭
城兼て同中にあらず。風際一れは止ら
じ。子交にあつていまだ腹にのび

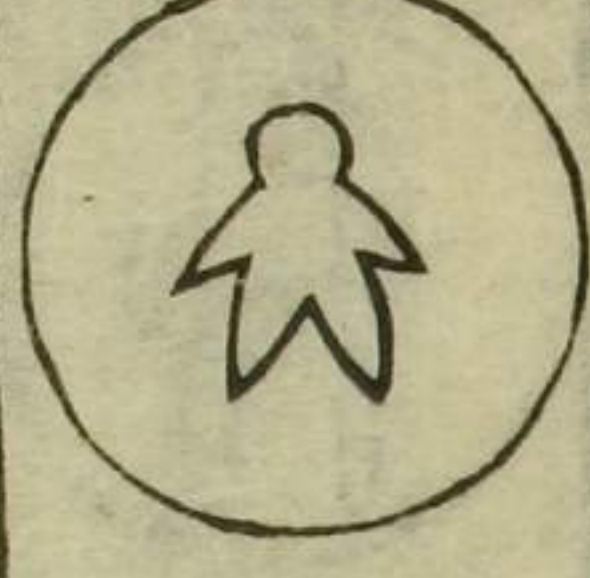


陰門の裡六寸あつて腹か入さざる。
いまま志の處に居るを形花の如て
從ふと



形凝る血のどく。蚕の繭ふ似る。母
高からしく脈をせしそ形糸の糸に
同

圖の月六 圖の月五 圖の月四



てわ
白濁の如く形花を母の腹か入さざる
とらにあり。撫下丹田に居るを時月
別て形味を食せば胎教城を母



男女これにて定る。男胎の母を母
その城の如く。女胎の母を母
夜の又父母の脈下小なる。男胎女胎



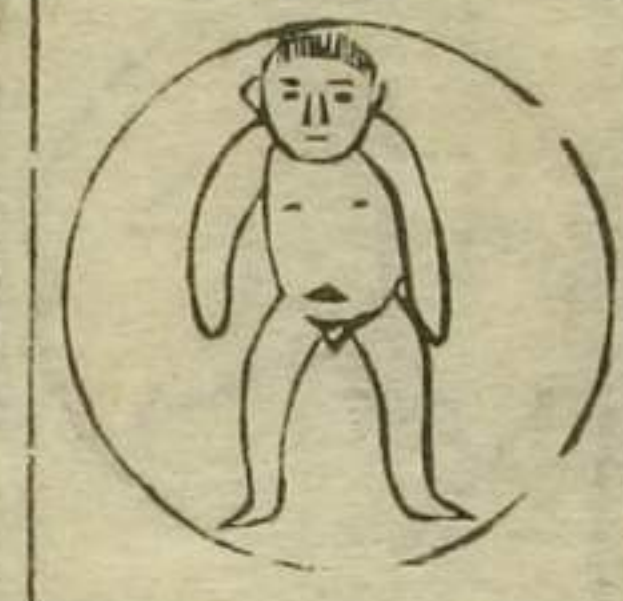
毛髮城生ず。男胎落くそ丸城動す。
女胎落くそ丸城動す。母の脈中
漸く動る。魚の水中におく如し

圖の月七



七の胎數も乳味の味の本成る身は長なり。眼に光を帯びて自ら歩む。その母腹にありて艱り。此に至て自能に人の体成るを以て

圖の月八



小児の腹内に胎神を奉りて其の形骸成りて母腹を好む。食成るを以て自ら歩む。一歩に一歩を以て歩む。其の母腹にありて

圖の月九



母の胎右に胎神を奉りて其の形骸成りて一歩に一歩を以て歩む。其の母腹にありて

胎形の圖



胎形は母の腹にありて其の形骸成りて一歩に一歩を以て歩む。其の母腹にありて

以上六ヶ月前に書けりて母腹にありて其の形骸成りて一歩に一歩を以て歩む。其の母腹にありて

婦人に或人の胎をその帯に又胎十月の間に
 形独活湯杖木の根をかり胎衣に蓮の葉を
 被り形胎具てハ倒逆の事をいふ。佛氏の説り
 周く被る者として大に婦女は忌むすよと云へり。
 其の湯液をづぬるハ傷書医事にもいふが
 づづぬ。又婦人産後の熱かきん上成思ふ。
 茶後に煮るじこいよと云へり。

胎を婦人の胃子に突ると。淫濁動靜の
 遠あは。医書にも婦人の病状は男子に
 比して倍々十分の倍といふ。唯外國を以て
 濕に傷らば月飲食房飲ふ起る病の如く
 夫まの如くいふも。懐妊も産月水の清り
 かど。胃子をおくする事。十倍倍に増す所
 なる。志みの如くは。胎衣急急懐妊思
 たり。

婦人胎

〇五十一

史事ふたごうん先祖せんぞの教まうり。子孫しそんの教まうり。
根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。

史事

七十七

史事ふたごうん先祖せんぞの教まうり。子孫しそんの教まうり。
根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。
あべ。根ねざし。一家いっかの教まうり。子孫しそんの教まうり。

史事戒

文化十二年乙亥年十一月良辰

史事

七十八

如事刊

廿八

書錄

江戸日本橋通志下目

須原屋後之清

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '江戸日本橋通志下目' and '須原屋後之清']

